



在宅酸素療法をご存じですか？

リハビリ室 理学療法士 久場 兼祥

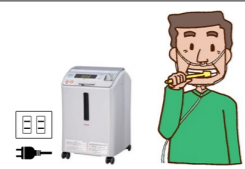
・呼吸器（肺）の病気は、酸素を十分に体内に取り込めず、酸素不足状態になり、息切れなど様々な障害が起こります。



酸素を吸うことで、酸素不足による身体機能の低下を改善します。それが**在宅酸素療法（HOT）**です。

在宅酸素療法のイメージ図

屋内に濃縮器を設置
状態に応じて酸素量を設定



外出の際は酸素ポンプを使用
目的に応じて、運搬方法を**カート**、**リュック**、**歩行器タイプ**などに使い分けます



在宅酸素療法を活用することで息切れが改善、活動量も上がり、**趣味や社会活動、旅行、お仕事を継続**することが可能になります。

①酸素の量

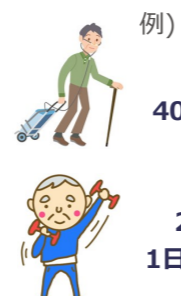
- 安静時：（ ）L
- トイレ：（ ）L
- 入浴時：（ ）L
- 歩行時：（ ）L
- 就寝時：（ ）L

※濃縮器に貼り付け

②酸素投与器具や機器



③適切な運動量



例)
1日
4000歩目標
+
2kg重り
1日20回3set

リハビリ職種がその人の状態から、上記の3つを提案し、最終的に医師からの指示のもと、在宅酸素を使用します。

呼吸器疾患で運動や日常生活で悩みごとなどがあれば、遠慮なくご相談ください



西表島に吹く風とともに 一医療と暮らしを結ぶ架け橋 西表西部診療所 医師 波平郁実

西表西部診療所に2024年4月より赴任いたしました、波平郁実と申します。島を渡る風の心地よさと、人々の温かなまなざしに包まれ、日本が誇る大自然の中で過ごす毎日は、学びと喜びに満ちたかけがえのない時間となっています。私が暮らす祖納（そない）は、西表島の中でも歴史と文化が息づく地域です。無形文化財「節祭」（しち）をはじめ、豊年祭や青年祭、地域の運動会など四季折々の行事が受け継がれています。魚の品取りやイノシシ猟にも参加し、病と向き合うだけでなく、人々の暮らしに寄り添う視点が自然と磨かれていくことを日々実感しています。診療所には、地元のおばあ自慢のてんぷらや、おじいさんが獲ってきたミ

ジュン、さらにマンゴーやパインといった旬の恵みが届き、スタッフの心と体を癒してくれます。そうした交流を通じて、歴代の先生方が築いてこられた地域の皆さまとの信頼を改めて感じています。ある台風の夜、急患対応中に発電機が故障した際には、大雨の中、近隣の方々が駆けつけ修理を手伝ってくださり、診療を続けることができました。再び灯った医療機器の明かりは、島に根付く「助け合い」の精神そのものだと感じました。これからも島と診療所を結ぶ架け橋として、学びを地域に還元しながら、医療と暮らしを同じ目線で育んでいきたいと考えています。



やいまむん

沖縄県立八重山病院広報誌（令和8年1月発行）

発行 / 沖縄県立八重山病院
編集・企画 / 沖縄県立八重山病院 広報委員会

〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1
TEL:0980-87-5557(代表) FAX:0980-87-5835



沖縄県立八重山病院広報誌

やいまむん

Vol.17
2026.1

八重山病院お仕事体験ツアー（2025.10.25（土）開催）



ご参加いただきありがとうございました!!

- やいまじんプロジェクトのご紹介
- 今年度の看護部取り組み
- 電子カルテ更新報告と「ポケメド」紹介
- 病院を支える基盤整備！新システム導入のお知らせ
- 在宅酸素療法をご存じですか？
- 診療所だより（西表西部診療所）



やいまじんプロジェクトのご紹介

腎臓内科 医師 和氣 亨

心臓病や脳卒中の危険因子となるばかりでなく、進行すれば透析が必要になるのが慢性腎臓病(CKD)ですが、早い段階で治療に取り組みれば進行を抑えることができる病気でもあります。全国の成人5人に1人がこの病気だといわれますが、八重山ではなんと3人に1人がCKDの可能性あることがわかってきました。

国はCKDの重症化を防ぐための地域をあげた取組みをモデル事業として募集し、八重山病院が全国6つのプロジェクトのひとつとして今年選ばれました。7月に関係者が集まってプロジェクトのキックオフ会議を行い、9月にはプロジェクト名がやいまじんプロジェクトと決まりました。やいまの人々の腎を守り、10年後の透析患者を全国平均並みに減らす(今は全国の1.25倍)ことが目標ですが、八重山人(やいまじん)のネットワークで取組むという意味もこめられています。

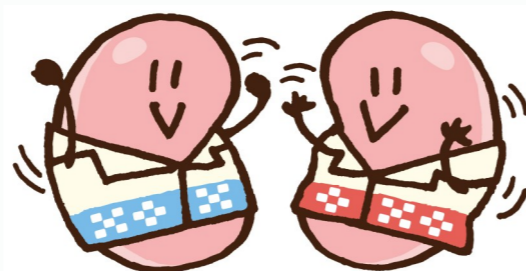
CKDの可能性のある人を健診で見つけ、CKD協力医となる開業医を受診していただき、重症化の可能性のある人を八重山病院に紹介してもらい、詳しい検査と多職種(医師、看護師、薬剤師、栄養士)や多診療科(腎内科、循環器科、総合診療科)が評価や指導を行ないます。その後は元のかかりつけ医と専門医の両方が主治医になってフォローアップする「二人主治医制」で診療を続けます。

この取組みを先行して行なっている宮古地区医師会

(みゃーくCKDプロジェクト)と連携して、先島連合で取組むことも決まり、11月にオリジナルキャラクターが決められました。ソラマメの形の腎臓が、ミンサー柄のかりゆしウェアでカチャーシーを踊っています。踊る男女の手の形(グーとパー)やシャツの色(尿の色)にまでこだわって八重山らしさ、腎臓病対策であることを表しました。

今後は市民向け講演会も予定されており、このプロジェクトの成果に県も他の市町村も注目しています。

CKDに自覚症状はないため、検診でしか見つけることはできません。毎年健診を受け、受診勧奨の案内が来たら、まずはお近くのCKD協力医やかかりつけ医にご相談ください。一目で協力医とわかるよう、クリニックにはやいまじんプロジェクトのキャラクターが入ったのぼり旗が上がっている予定です。



「やいまじんプロジェクト」オリジナルキャラクター



今年度の看護部取り組み

看護部長 上江洲 美智子



令和7年8月1日の電子カルテ更新に伴い、看護部門システム(チームコンパス)を導入しました。



目的は

- ・標準化された良質な医療業務を効率的に実施し医療の質を保証
- ・看護師個々の経験知による看護のムラをなくし看護の質を担保
- ・看護記録時間を短縮

本来のベットのサイドでの直接ケアに専念できる

結果

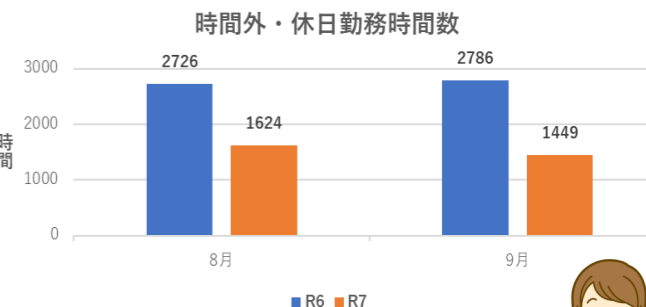
時間を割かれている業務が記録から直接業務へ

看護師が時間をかけている業務TOP 5

	R6年11月		R7年9月
1位	記録		食事の介助
2位	報告・申し送り		報告・申し送り
3位	食事の介助		測定
4位	測定		身の回りの世話
5位	情報収集		休憩

チームコンパスの導入後

成果



今後も患者様に価値をおいた良質で安全な看護を提供できるよう取り組みます。



電子カルテ更新報告と「ポケメド」紹介

医事課長 宮城 靖

当院では、更なる医療サービスの向上とより安全で良質な医療提供を目指し、令和7年8月1日に新たな電子カルテシステムに更新しました。更新にあたっては、令和5年7月から会議等を繰り返し開催し、職員一丸となって取り組みました。また、更新直前にはスムーズな移行を目指しシステムの操作研修、外来・入院リハーサルも行い、入念な準備を進めました。しかしながら、更新直後には想定外のトラブルやシステム操作の不慣れ等により、受付・診察・会計の待ち時間が長くなることもありました。受診された皆様には何かとご不便やご迷惑をお掛けしましたこと、お詫び申し上げます。引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、今回の電子カルテシステム更新に伴い、患者様へより便利で安心して受診していただけるよう新たに患者サポートアプリ「ポケメド」を導入しました。スマートフォンひとつで診察券や予約確認ができるようになり、利便性が向上した受診環境となりましたので、主なサービスを紹介します。

【提供可能なサービス】

- ・モバイル診察券：スマートフォンが診察券になり、再来受付機や自動精算機でご利用できます。
- ・家族の診察券管理：1つのアカウントで、ご自身だけでなくご家族の診察券情報も一括管理できます。
- ・予約状況確認：次回の診療予約の日時や内容を確認できます。
- ・受診忘れ防止機能：受診日の前日にお知らせ通知が届きます。
- ・請求履歴確認：受診時の請求金額を確認できます。
- ・領収書等確認：アプリ画面で領収書を確認することができます。
- ・オンライン決済：診察後に会計を待たず処方箋を受け取り、帰宅できるので、待ち時間短縮が図れます。

(令和8年1月中旬に公開予定)

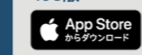
会員登録すればすぐに無料で使用可能です。ポケメドの活用により、通院がより便利となります。是非ご活用ください！今後も患者サービスの向上に努めてまいります。



アプリをスマホに無料でダウンロード！

QRコードを読み込むと、ダウンロード画面が表示されます。

iOS版



Android版



ポケメド

検索

情報システム管理室より

情報システム管理室 下地 裕也

病院を支える基盤整備！新システム導入のお知らせ

このたび、当院の運営を支える電子カルテシステムが、去る8月をもって無事に全面更新いたしました！この大きなりニューアルは皆様により安心で安全なサービスをお届けし地域での暮らしをしっかりとサポートしていくための大切な取り組みです。

5つのコンセプトと1年間の準備

- 医療安全：感染対策、セキュリティ強化、BCP(災害対策)の検討
- 業務効率化：システム間の情報共有をスムーズにし効率化を目指す
- 働き方改革：タスクシフト/シェアを通じた職員の負担軽減
- 患者様サービスの向上：各種待ち時間の短縮など、利便性の向上
- 情報の利活用：経営や研究に役立つデータ活用基盤の整備

1年以上の準備期間をかけて、こだわった「安心・安全」

今回のシステム更新はとても大規模で複雑な作業でしたので1年以上の時間をかけてじっくりと計画を進めてきました。

新しいシステムは約40のシステムが集まってできています。検査科、放射線技術科、手術室、医事課など多くの専門部署が連携して使うシステムもあります。

各部署の担当者とともに、新システムでの運用について打ち合わせを重ねました。

約40のシステム一つ一つが正確に安定して情報をつなげるよう尽力いたしました。

確かな土台で、地域の暮らしをそっと支えます

私たちはこの強くなった情報システムという土台の上で当院が提供するサービスの信頼性を高め地域の皆様の健やかな毎日を間接的に、そして着実に支えてまいります。

大切なお願いと、ご理解のお願い

今後システムをさらに安定させるために細かい調整(微調整)が必要になることがあります。その際にはまれにシステムを一時的に停止させていただく可能性がございます。

皆様にはご不便をおかけするかもしれませんがもっと安全で安定した運用を続けるための対応として、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。